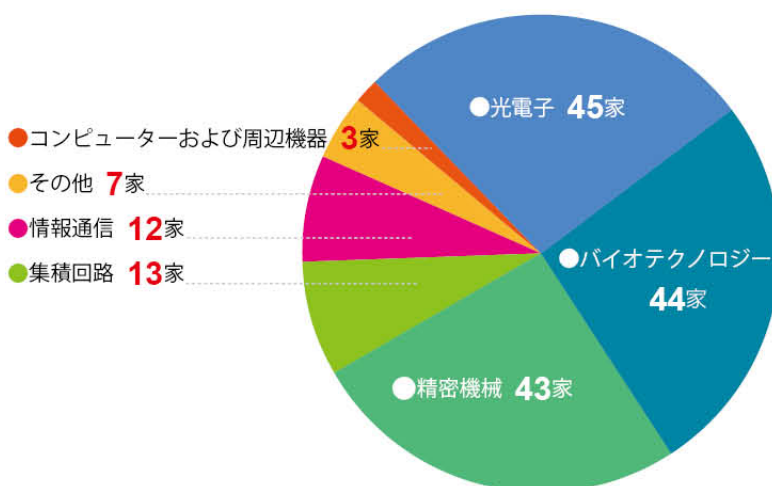


産業の動向

投資誘致

世界的な景気回復のおかげもあり、南科は今年もまた目覚ましい成果を挙げることができました。2010年は、バイオテクノロジー14社、光電子7社、集積回路2社、精密機械1社、通信産業1社からなる計25社（高雄園区17社、台南園区8社）、総額104.1億円の投資案件が認可され、これで累積入居認可企業数は167社となりました。また、入居企業による投資拡大も、奇美電子会社のタッチパネル南科工場や緑能科技会社による太陽電池用シリコンウエハ生産など計14社、増資総額は177億元に上ります。



2010年末時点各産業別有効認可企業数

年度別有効認可企業数累計

| | 1998年以前 | 1999年 | 2000年 | 2001年 | 2002年 | 2003年 | 2004年 | 2005年 | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 |
|------------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 累計認可企業数(社) | 20 | 29 | 47 | 65 | 91 | 114 | 132 | 138 | 144 | 155 | 158 | 156 | 167 |

産業集積

光電子産業

2010年に新たに認可された7社を加え、2010年末時点での入居企業数は認可ベースで計45社となっています。

特に、TFT-LCD産業については奇美グループや瀚宇彩晶会社を中心に川上から川下まで数多くのメーカーが産業集積を形成するなど、南科が台湾のTFT-LCD産業を支える主役的存在となっています。奇美グループはパネルを生産する7工場のほか、OLEDの研究開発を目的に奇晶光電会社を設立、また、生産能力拡充のため高雄園区に第8.5世代工場を建設しました。瀚宇彩晶会社は南科の2工場パネル生産を行っています。今後、スマートフォンやタブレット端末に対する需要の高まりでタッチパネル市場の急成長が見込まれていますが、南科においても和鑫光電会社と奇美電子会社がタッチパネル工場を立ち上げており、TFT-LCD関連の部材、設備メーカーのサポートを得ながら南科の光電子産業をさらに発展させていくことが期待されています。

太陽エネルギー、LED、電動車用リチウム電池を中心とするクリーンエネルギー関連企業において、太陽エネルギー分野では2010年末まで茂迪会社や大億光能会社など9社が進出しており、川上の材料から川中の電池、川下のモジュールに至るまでのサプライチェーンが整いつつあります。晶元会社や新世紀会社など6社が入居するLED産業は、大手メーカーの進出が川上の材料や川下のパッケ

ージング、システムメーカーなど周辺メーカーの進出を促す形で産業集積が進んでいます。現在、能元科技会社が世界第5の自動車用リチウム電池メーカーとして注目されています。

南科では、太陽電池の検査認証能力強化のため企業による投資を積極的に支援するほか、核エネルギー研究所の高集光太陽光発電高検査と発展センターも誘致して太陽電池エピタキシーや製造、テストングなど関連技術の提供や検査基準の策定を進めることで、国内企業による開発の効率化、国際基準に沿った検査認証制度の確立を目指しています。また、品質安全規格の認証にかかる時間の短縮、国内企業の国際競争力向上を目的として、2010年2月、高雄園区に電信技術センターの緑色通信情報実験室が設置されました。

集積回路産業

集積回路分野では新規認可の2社を入れ、2010年末までに認可ベースで計13社が進出しています。台積電会社はすでに操業中の第6工場(8インチウエハ)と第14工場の第1、2、3期(12インチ)のほか、第14工場の第4期、そしてウエハレベルパッケージを行う最先端の工場を建造中です。また、聯電会社でも南科に建設した第12A工場の第1、2、3、4期が量産中、このほか研究開発センターが設置されています。このように、南科は国内最大級の12インチ工場集積地の一つとなっています。



高雄園區における医療器材メーカー合同落成式と「南部バイオ医療器材産業集積発展計画」成果発表会(2011.2.14)

精密機械産業

精密機械産業はハイテク産業を支える基礎であり、南科における集積回路産業、光電子産業、クリーンエネルギー産業の発展とともに、南科の精密機械産業もまた着実に成長してきました。現在、南科には光電子、集積回路、クリーンエネルギー(主に太陽エネルギー、LED)などの精密機械産業が存在し、累計認可企業数は2010年末時点で43社(うち新規が1社)となっています。

バイオテクノロジー産業

バイオ産業は南科が特にその発展を重視する重点産業の一つで、2010年には新たに14社が入居しました。2010年末までに投資を認可された企業はワクチン製剤を筆頭に、検査試薬、医療器材など44社にのぼり、台湾トップの原料薬品メーカー・台湾神隆会社や景岳会社、徳英会社、展旺会社、金穎会社など有名メーカーも進出しています。

バイオ医療器材産業集積の構築を加速するために、南科管理局は2009年から17億円の予算をかけて「南部バイオ医療器材産業集積発展計画」を推進しました。医学界、医療現場、企業、研究機関がそれぞれの専門と経験を

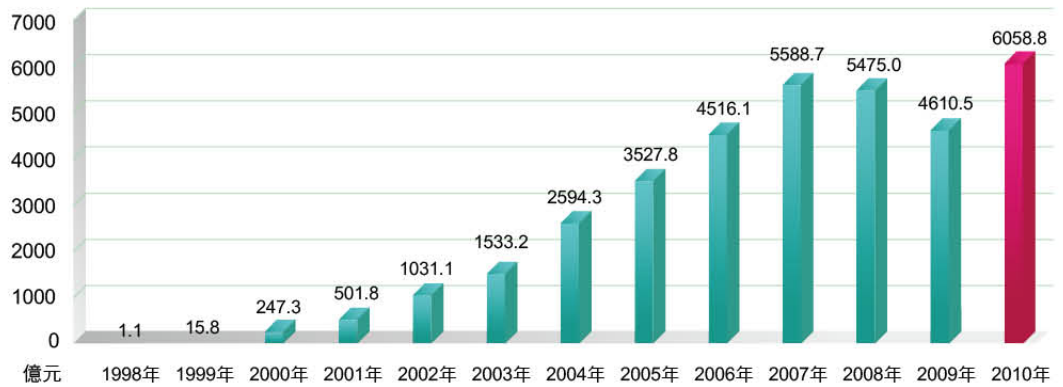
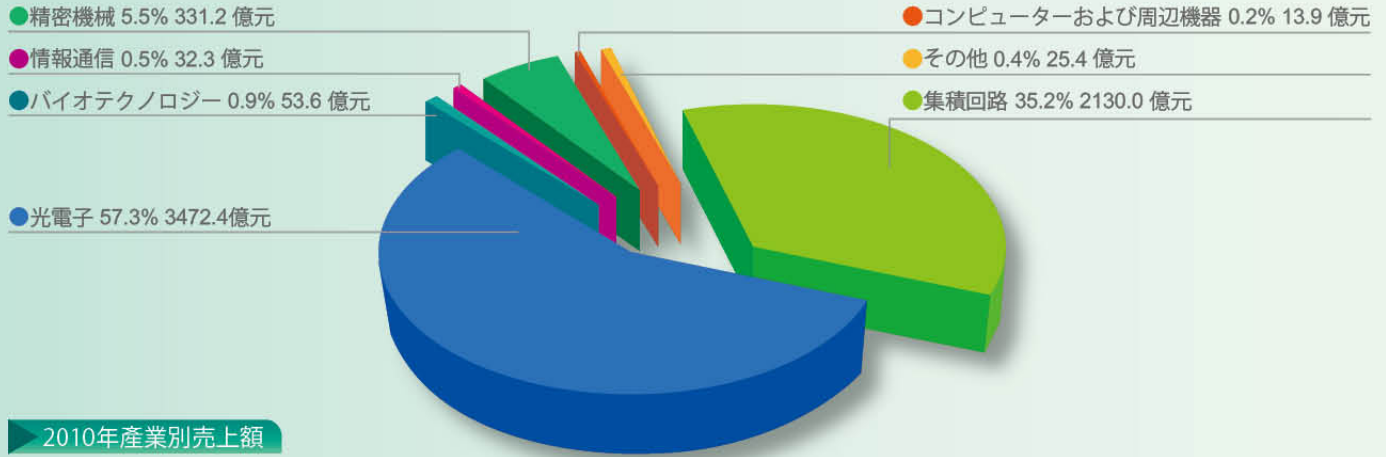
生かして臨床用の高度な医療器材・技術を共同開発し、医療器材の国内ブランドを確立し、台湾の医療器材の技術水準と国際的な評価を高めようというものです。高雄園區を国際的な医療器材センターにしようという強い決意が反映されています。

2010年末までにこの「発展計画」には累計で65件の申請があり、うち47件に対して6.31億元の助成金が認可されました。「発展計画」の申請をして入居を認められたメーカーは国内整形外科用資材メーカーの聯合骨科会社、人工歯根メーカーとして台湾で初めてTFDA認証を取得した鴻君会社、美容外科用レーザー治療機メーカーの成果科技会社、乳房MRIメーカーの奥羅瑞会社など25社がある。認可有効投資金額はほぼ25億元でした。

一方、研究開発協力機関として金属セーター光電子医療材料處、国立成功大学、高雄医学大学、台北医学大学、国立台湾大学、国立陽明大学、南台科技大学、国立中山大学、国立屏東科技大学など9箇所の大学・研究機関が進出するなど、高雄園區においても徐々に医療器材産業の集積が進められています。

売上額

南科全体で見た2010年の売上額は2009年比で31.4%増の6058.8億円、そのうち光電子産業(57.3%)と集積回路産業(35.2%)で計92.5%を占めています。



輸出入貿易

2010年の輸出入額は総額6473億元、輸出額は2009年比で36.9%増の3430億元で、主たる輸出先は中国や香港となっています。輸入額は2009年比で150.3%増の3043億元、これは日本やアメリカからの半導体設備、部材の輸入が中心で、景気上昇を背景に各メーカーが大幅な生産拡大に踏み切っていることがうかがえます。



注：2008年(含む)以降は新設された園区通関システムで統計し、国内販売、保税區への移転は含まれません。

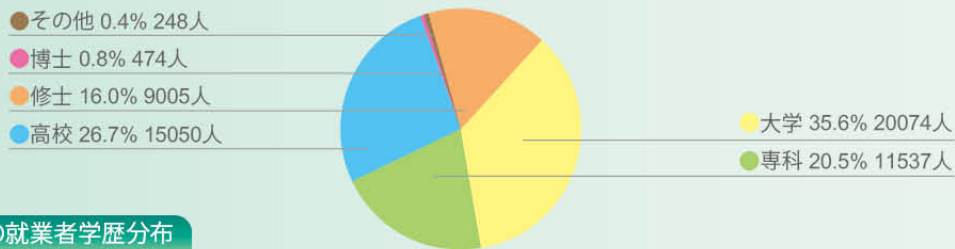
年度別輸出入額

従業者数

景気回復に伴い入居企業の経営状況も安定傾向にあり、2010年、南科における就業者数は2009年比で7762人増え、過去最多の56388人となりました。就業者を学歴別に見てみると、博士・修士号を有する者が9479人で、16.8%を占めています；大学・専科卒業者が31611人で、56.1%を占めています。

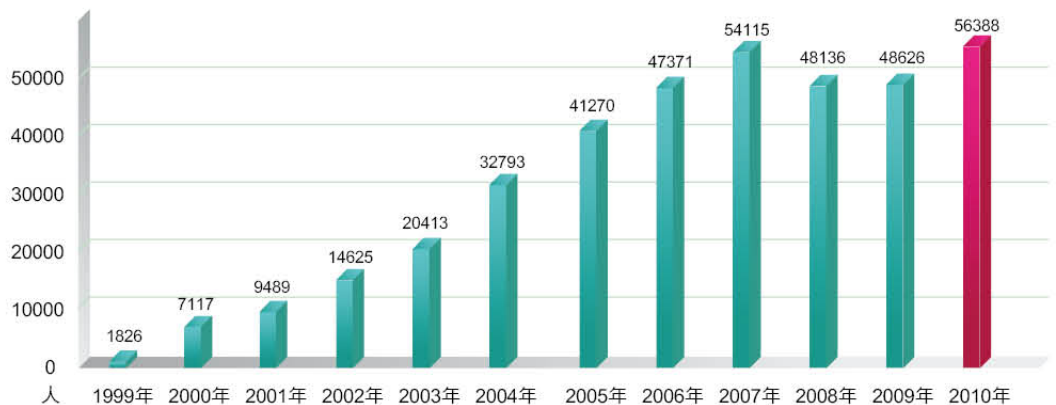


▶ 2010年末時点の産業別就業者数



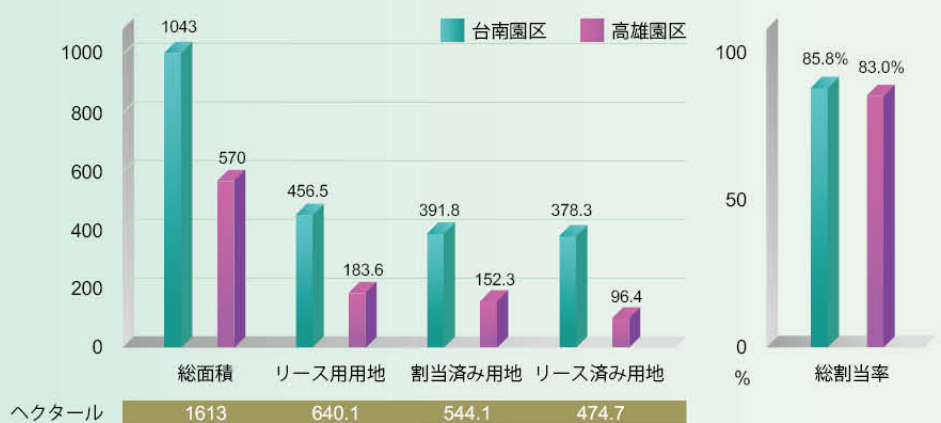
▶ 2010年末時点の就業者学歴分布

▶ 年度別就業者数



土地リース

南科にはリース用用地が640.11ヘクタールあります。2010年末時点での台南園區における用地のリース率は82.9%、割当済み用地率は85.8%、高雄園區ではリース率52.5%、割当率83.0%で、南科全体ではリース率74.2%、割当率85.0%となっています。



▶ 2010年末時点の土地リース情況